

平成30年度 山陽小野田市中学生海外派遣事業 帰国報告書



平成30年8月9日(木)～8月20日(月)

山陽小野田市

目次

中学生海外派遣事業概要.....	2
------------------	---

- 1 目的
- 2 派遣先
- 3 派遣期間
- 4 派遣生徒及び引率者
- 5 スケジュール

活動日誌.....	4
-----------	---

ホームステイ報告及びホストファミリーの紹介.....	7
----------------------------	---

・派遣生徒

・引率者

◆中学生海外派遣事業概要

1 目的

山陽小野田市と姉妹都市モートンベイ市との交流を図り、もって両市の友好親善と相互理解を深めるとともに、広い視野と国際感覚を持った次代を担う人材を育成することを目的とする。

2 派遣先

オーストラリア クイーンズランド州 モートンベイ市



3 派遣期間

平成30年8月9日(木)～8月20日(月) 12日間

4 派遣生徒及び引率者(敬称略)

あおき 青木	ゆうだい 勇大	竜王中学校	3年	あしざわ 芦沢	さき 咲月	小野田中学校	2年
いわた 岩田	まゆこ 真由子	厚狭中学校	3年	いわだて 岩館	ようこ 瑤子	小野田中学校	3年
かねこ 金子	みゆ 瑞優	高千帆中学校	3年	かわぐち 河口	はるか 春伽	高千帆中学校	3年
ひろなか 廣中	たいち 太一	厚陽中学校	2年	まきの 牧野	なつみ 夏実	埴生中学校	3年
はらだ 原田	さとみ 里美	高千帆小学校教諭		たじま 田島	ゆうき 優希	山陽小野田市職員	



5 スケジュール

【事前研修】

第1回オリエンテーション	6月13日(水)18:30～	市役所3階大会議室
第2回オリエンテーション (宿泊研修)	7月24日(火)13:30～ 25日(水)13:00	きらら交流館1階研修室
壮行会	8月2日(木)16:00～	市役所3階大会議室
第3回オリエンテーション	8月2日(木)壮行会終了後	市役所3階大会議室

【オーストラリア派遣期間】

8月9日(木)	厚狭駅～福岡空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月10日(金)	ブリスベン空港(到着)～モートンベイ市へ レッドクリフハイスクールにて歓迎式、終了後校内で過ごす
8月11日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月12日(日)	ホストファミリーと過ごす
8月13日(月)	ホストファミリーと過ごす(祝日:Brisbane show day)
8月14日(火)	ハンピーボング小学校訪問(※1)
8月15日(水)	オーストラリア動物園
8月16日(木)	スカーバラ小学校訪問(※2)
8月17日(金)	レッドクリフハイスクールで授業、さよならパーティー
8月18日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月19日(日)	ブリスベン空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月20日(月)	福岡空港(到着)～厚狭駅

※1 ハンピーボング小学校は赤崎小学校の姉妹校

※2 スカーバラ小学校は高千帆小学校の姉妹校

【帰国後】

帰国報告会	9月26日(水)17:00～	市役所3階大会議室
-------	----------------	-----------



活 動 日 誌

日付	報告者	活 動 内 容
8/9 (木)	岩田 真由子	福岡空港で出国の手続きをした。ここでは日本語だったので上手に出来た。飛行機の中では映画を見た。初めての国際線だったので機内食はインターナショナルを選んだ。初めて食べた物だったがとても美味しかった。シンガポールの空港はとても広かった。空港内をバスで移動することにとってもおどろいた。まず両替をした。それからさよならパーティーの打ち合わせをした。自由時間にまずお昼ご飯を買った。上手く英語を話すことは出来なかったが、お店の方はとてもやさしくジェスチャーなどを使って教えてくれた。それからお土産を買ったり、外国の方と話した。挑戦するのはとても楽しいことだと思った。
8/10 (金)	芦沢 咲月	朝、ブリスベン空港に着きました。30分ほど車に乗ってレッドクリフハイスクールに行きました。そこには、みんなのバディが出むかえてくれました。自己紹介をした後、一緒におやつを食べながら話す機会がありましたが、緊張してしゃべれませんでした。その後は、2グループに分かれて日本語の教室に行きました。びっくりしたのは、とても積極的だということです。他の教室に行っても、みんなが楽しそうに授業をしていて、誰一人、つまらなさそうな人はいませんでした。たくさんの人に声をかけられ、初日を楽しく終えることができました。
8/11 (土)	金子 瑞優	今日は朝、海に行った。海はすきとおっていてすごくきれいだった。家に戻ると昼食を食べた。しばらくするとバディのいとこ家族たちが来た。「伝統楽器を演奏する。」と言い長い管楽器を演奏しはじめた。ユーカリの木で作られるディジュリドウという楽器だそうだ。その楽器が演奏できるのは男の人だけだそうだ。バディの弟といとこの男の子はその音に合わせて動物のマネをするおどりをした。これも伝統の1つだと言う。また、もう1つの楽器は拍子木のようなものでリズムをつけていた。私がやらせてもらい、バディの叔父さんは「そのままあげる。」と私にくれた。そのあとはずっと叔父さんと話した。日本のどこに住んでいるのか、日本語をかいてほしいなど、Google 翻訳を交えながらも、すごく親切に分かりやすくお話をしてくれた。いとこ家族が帰ったあと、私たちはマリーボロへ2泊3日のキャンプに行くため3時間かけて車で行った。そこは大自然に囲まれたところで、4人のおじいさんとおばあさんがいた。私たちは夕食を食べ、外のキャンプファイヤーのところに行った。空を見上げると日本では見られないたくさんの星が見え、すごくきれいだった。その日はキャンピングカーで寝泊りをした。

日付	報告者	活 動 内 容
8/12 (日)	牧野 夏実	今日は起きてすぐに母の Tamaho と犬の Lexy をドギーパークに連れて行きました。そこは、この辺でとても広いドギーパークで多くの人が集まるそうです。色々な犬がいましたが、すぐに近づいてきてとてもフレンドリーでした。すれちがう人もみんなあいさつをしてくれてうれしかったです。私も自然とあいさつをしているようになっていました。そのあと Amelie と毎週日曜にあるマーケットに行きました。屋台がたくさんあってお祭りのようでした。屋台で食べ物を頼むとき、伝わるか不安だった英語も大きな声で言うのちゃんと伝わったようです。お昼からは Amelie と折り紙をしました。私よりもきれいに折っていてとても驚きました。今日はホストファミリーに毎日教えてもらっている英語をちゃんと応用でき、会話にも入っていけました。この調子でがんばりたいです。
8/13 (月)	青木 勇大	ちらしずしを作りました。インディカ米で作るとやっぱりパサパサしました。ブリスベンの博物館にも行きました。エジプトのミイラ展というものが開催されていました。水晶を安く買えてビックリしました。
8/14 (火)	岩館 瑤子	今日はハンピーボング小学校に行きました。数学の授業では、「ようこ、よくできました」と男の子が日本語で言ってくれました。その後、レッドクリフ・ハイスクールの人たちとフィッシュ&チップスを食べました。会話をするのがとても楽しかったです。その日の夕食は私がかつ丼をつくりました。ホストファミリーはとってもほめてくれました。
8/15 (水)	廣中 太一	今日は、オーストラリア動物園に行きました。レッドクリフ・ハイスクールからバスで行きました。着くまでの間、Jesse と自己紹介をしました。案外盛り上がりしました。動物園ではコアラや鳥と一緒に写真をとったり、カンガルーに餌をあたえたりしました。自分はコアラが一番カワイイと思いました。帰りは Ryan とハリーポッターなどの本の話をしました。最後に集合写真をとって終わりました。帰ると今日は Sonny のラグビーの練習日でした。彼はとても熱心に練習をしていました。
8/16 (木)	河口 春伽	スカーバラ小学校で一日を過ごしました。みんな元気でした。お昼休みになると「こっちに来て」と言われ、行ってみると、たくさんの幼い子どもたちが「一緒に遊ぼう」と言ってくれました。とてもうれしかったです。家に帰って、Bree のお父さんの Craig がプロのフットボールの試合につれて行ってくれました。前々から行きたかったなので、とてもうれしかったです。

日付	報告者	活 動 内 容
8/17 (金)	芦沢 咲月	今日は、レッドクリフハイスクールの人と過ごす最後の日。まず、技術の授業に行きました。初めて会う人達だったのに、同じグループになった子2人が、今からすることやゲームの内容について、すごく優しく教えてくれました。本当に優しい人ばかりです。次に家庭科の授業に行き、ビスケットを作りました。私の学校ではありえない料理なので、たのしかったです。最後はさよならパーティーをしました。福笑いはみんなに人気で、楽しんでもらえました。日本語クラスの人にはお世話になったので、最後と思うと、とてもさみしかったです、楽しくすごしました！！
8/18 (土)	岩田 真由子	海に行きました。初日からとても楽しみにしていたので本当にうれしかったです。くつを脱いで海に入りました。とてもつめたくてきもちよかったです。冬でも海にはたくさん人がいたので日本ではありえないなと思いました。それから海の手前にある公園でバーベキューをしました。公園にバーベキューができる台があって、みんな自由に使っていて、すごいと思いました。日本にもあればいいと思いました。帰る途中にソフトクリームを買いました。とても美味しかったです。夜ご飯はマザーがカレーを作ってくれました。とても美味しかったです。
8/19 (日)	牧野 夏実	とうとう最後の日です。最後のショッピングを楽しみました。お昼ごはんはクレープを作ってくれて、お別れなんだと思うと泣きそうになりました。お別れのときは泣かないようにしようと思っていましたが、それは無理で、今までで1番泣きました。バスが発出したときにみんながおいかけてきてくれて、さびしくもあり、うれしくもありました。Mahoney 家はとても優しく、おもしろく、温かい家族でした。Mahoney 家が大好きです。
8/20 (月)	青木 勇大	飛行機にのってから「もう戻ることはできない」と思うととても寂しくなりました。長いようでとても短い10日間でした。厚狭駅につくと「ああ～日本だな」という思いも出てきました。オーストラリアが2つ目の故郷になったんだと思いました。
	廣中 太一	今思うと、とても早い日々でしたが、とても充実した日々で毎日が楽しかったです。自分にはもう日本に着いたという、オーストラリアが恋しい思いと、やっと日本に帰ってきたという、安心感がありました。この派遣事業にかかわった方々のおかげですばらしい体験ができました。本当にありがとうございました。



竜王中学校3年

あおき ゆうだい

青木 勇大

1計画(PLAN)

今回の目標は2つあります。1つは積極的に英語を話し、英語力をつけること。2つ目は、現地の英語になれ、リスニング、スピーキングの力をつけることです。

僕は、この海外派遣が終わって9月に、英語の弁論大会を控えています。そこで、現地の英語を学び、正しい英語の発音に慣れ親しみ、しっかりと力をつけたいからです。

2行動(DO)

スピーキングの力を上げるために、積極的に会話をしようと心がけ、たくさんのお店の人やホストファミリーと話をしました。ちらしずしを現地でごちそうしようとしたときに、知っている単語や知識を並べて伝えようとしてしました。前日に用意するために買い物へ行ったときは、全然だめでしたが、当日は落ち着いて伝えることで、理解してもらうことができました。

リスニングは最初の方は皆、英語がとても速くとても聞きとることができなくて、雰囲気ですべてしてしまうの方が多かったです。ですが会話を続け、根気よく聞き返すことで、耳も慣れ、最後の方では聞き返すことも少なくなりました。日本で習うようなことでは足りない、ということが身にしました。

3評価(SEE)

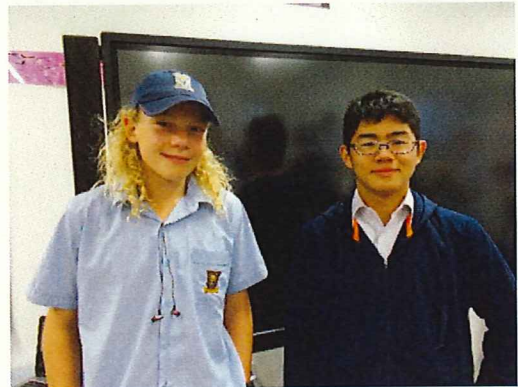
☆90点☆

100点満点中なら90点です。最初はやはり緊張や不安からどうしても必要なこと以外は話しかけることができませんでした。現地の英語にも適応できず、コミュニケーションがうまく進まないことは多々ありました。ですが、少しの勇気を持って心にとまったことを少しずつ簡単な英語で伝えるようにすると、あちら

も親切に返してくれました。英語を聞きとることが下手だったけれど、何度もたずねているうちに、耳も慣れ、うまくコミュニケーションがとれるようになりました。でも、ホストマザーとバディが車の中でしているような世間話みたいな話は、話題がひろえず、入ることができなかったし、もっと努力すればよかったと思います。そこがー10点と考えたところです。

見つけた違い

今回のオーストラリアへの派遣事業での10日間、自分にとって、数え切れないくらいの思い出と、たくさんの貴重な経験を与えてくれました。そして、たくさんの人と出会い、自分もまた一つ成長することができました。



最初のうちは「自分の英語でコミュニケーションがちゃんと取れるのだろうか。」という不安に押しつぶされそうでした。飛行機の中でも、英語はあまり喋れずとても不安でした。ですが、ホストファミリーが、喋っていることを理解できるまで何度もゆっくり、伝えようとしてくださいました。おかげで、耳も慣れ、数日後には聞き返す回数も激減し、スムーズにコミュニケーションが取れるようになりました。伝わる・伝えることができると思うと英語への自信もついてきました。そして、長いと思っていた10日間への不安も少しずつ

なくなっていました。

4 日間訪れたレッドクリフステイトハイスクールでは、その4日間すべてが新鮮で、驚きに満ちていました。

まず驚いたのは、昼食が日本と比べてかなり早かったことと、生徒がみんなパソコンで授業を受け、ノートをあまり使用していなかったことです。昼食は 10 時終わりくらいにみんな食べ始めていました。「モーニングティー」というものがあることは知っていましたが、別になっていないということは初めて知り、とても戸惑いました。文化の違いというものを、改めて自分の目で確かめることができました。さらに、あちらの学校では校内で普通に携帯を使っていました。

ハンピーポング・スカーバラ小学校では、みんな元気に過ごしていました。生徒とすれ違ったとき、自分たちが日本人だからか、日本語で、「こんにちは」や「オーストラリアはどうですか」と聞いてきてくれました。とても日本語が上手で驚きました。小学校では、昼休みにハンドボールなどでみんなと一緒に遊びました。ハンドボールは初めてやるのでルールもいまいちわからず、変になってしまいました。しかし、とても楽しい思い出になりました。

日本の学校とオーストラリアの学校とでは、学び方も、遊び方も、校風も、たくさんのものに違いがありました。それこそが文化の違い、大切にしていけばいいんだと思いました。

休日には、ホストファミリーがいろいろな場所に連れて行ってくださいました。最も印象に残った場所が、バディ・ホストマザーと一緒にいったプリズベンの博物館と美術館です。日本では、ほとんどお目にかかれないようなものまで置いていました。プリズベンまでは、電車で行きました。電車の乗り方もやっぱり見当もつきませんでした。ほかに、バディの Byron 君



のラグビーの試合に行きました。ラグビーは初めて見ましたが、ものすごい迫力でした。あの中で戦っている Byron 君はとてもすごいと思いました。



休日に一度ちらし寿司をつくりました。あちらのスーパーに行ったけれどジャポニカ米が見つからずインディカ米で作ることになりました。うまく作れるかどうか全然わかりませんでしたが、「美味しい」と言ってくれてとてもうれしかったです。

実のところ、この海外派遣事業、自分は、最初はあまり乗り気ではなく、憂鬱な気分になることも少なからずありました。申請書はもらっていましたがあまり本気に考えていませんでした。一人で海外へ行くことへの恐ろしさが勝っていたのです。しかし、オーストラリアに行ってそんな気分やイメージは全部吹き飛んでしまいました。ホストファミリーは優しく接してくれるし、毎日、「Are you OK?」と聞いてくれて気遣ってくれました。学校や街中で会う人もとても明るく話しかけやすかったです。そこはどれだけ感謝してもしたりません。

海外へ一人で行くという恐怖や不安は確かに大きいです。ですが、少し前にすすんでいったことで確実にそれ以上の経験と自信を手に入れることができました。

今回のオーストラリア滞在中でたくさんのことを知ることができました。単なる知識ではなく、ホームステイだからこそ気づき知ることができたものもあります。このような経験はもう手に入ることはほぼないだろうと思います。そして、確実にこれからの自分の人生において重要な役割を持つことになると思います。最後に、この貴重な経験をくださった全ての方へ心から感謝を申し上げます。

ホームステイ報告書

私のホストファミリーは、とても明るく、話しかけやすい方たちでした。いつも私のことを気遣ってくれ、心配してくれました。おかげでオーストラリアでは、体調を崩すこともなく楽しく過ごすことができました。

ホストマザーの Sandra は、まだ耳が慣れていなかった最初の頃、何度聞き返したりうまく伝えられなくても最後までちゃんと聞いてくれました。映画を見るときも、「英語だけど大丈夫？」と聞いてくれました。私の英語力が上がったのは、ホストマザーのおかげだと思います。レッドクリフステイトハイスクールに行く日に作ってくれたランチボックスはとてもおいしかったです。

ホストファーザーの Brett は、仕事の出張で4日間ほどマッカイ市に行っていたため、平日はあまり会話することができませんでした。しかし、休みの日には、近くのビーチに連れて行ってもらったり一足先にハンピーポング小学校を紹介してもらったりしました。一緒にいる時間は少なかったけれど、その少ない時間がとても楽しかったです。



バディの Byron 君は、とても気が合う人でした。私と同じでテレビゲームが大好きでした。何度か Byron 君のやっているゲームを見たり、一緒にカーレースのゲームを



しました。ほかにも Byron 君は映画が好きで、朝までリビングで映画を見ていることもありました。そして朝、ソファで寝ているのを見て Brett、Sandra と静かに笑ったりしました。僕は日本からのお土産として甚平をもって行きました。バディが甚平を cool と言ってくれました。気に入ってもらえて、とても嬉しかったです。

長そうだと思っていたオーストラリアでの10日間も、気づけばあっという間に終わっていました。10日目の朝、車の中で Brett が「また帰っておいで。」といってくれました。こうしてもらえて私はとても嬉しかったです。今回の思い出はここに書ききることはできません。それだけ私は Magnus ファミリーに良くしてもらったということが感じられました。またオーストラリアに行くことができるなら、次までにもっと成長して、今回よりもたくさんのことを話したり、聞いたりしたいです。

本当にありがとうございました！

Magnus ファミリー！

ホストファミリーの紹介

Magnus 家

父 Brett

母 Sandra

息子 Byron





小野田中学校2年

あしざわ さき
芦沢 咲月

1計画 (PLAN)

○自分の考えに自信を持つ

・言いたいことが通じるか分からないからって、言うことをやめない。思ったことは、迷わずとにかく言うてみる。

○コミュニケーション能力、語学力を高める

・小学校やハイスクールなどで出会った人には、積極的に自分から話しかける。

・お互い話が通じなくても、できればジェスチャーを使うなどしてそのまま話し続ける。それでも分からなければ日本人に聞くなどして、会話中に翻訳機は絶対使わない。

・家にいて暇なときはバディに英単語を覚えてもらったり、私が日本語を教えたりする。

○街並みをしっかりと目に焼き付け、文化を知る

・目に見えたすべてのものに関心を持ち、不思議に思ったものや名前が分からないものは、ホストファミリーに聞く。

2実行 (DO)

・言いたいことがあっているか分からなくてやめそうになったときもありましたが、目標を達成しなければ意味がないと思い、伝えることが出来ました。最悪、単語を繋げて話すときもありましたが、今ではそれでも話していてよかったと思っています。

・初日はなかなか声がかけれませんでした。3連休の間にホストファミリーとたくさん話して少し自信がついたので、ハンピーボング小学校に行ったときに自分から「Hello」と話しかけました。すると周りにいた生徒まで元気に「Hello!!」と返してくれました。これだけですが、私は自信がつき、それからたくさんの人に話しかけました。グループ活動のときには必ず名前と歳、好きな色を聞き、積極的にコミュニケーションをとることが出来ました。ジェスチャーを交えながら

話してずっと粘って見たら伝わったとき、達成感を感じることが出来ました。

・町についてはバディの Nicole が教えてくれたので、登校中に気になった建物や物はママの Hunter に聞くことが出来ました。英語で会話できたときはほんとに楽しいです!!

3評価 (SEE)

☆90点☆

積極的に話しかけることはできましたが、最初の2日くらい話しかけてくるまで待つてしまったので、それが減点のひとつです。他には、学校から帰ってきたらリビングに Hunter といたのですが、そのときにいつも話せなかったことです。「Hunter がスマートフォンをいじっていて話しかけられなかった」というのは、今では言い訳にならないと思っています。それで、5点ほど減点をしました。もう一つは、初めのころ、話しかけてくれたことに対して上手く答えられず、そのまま流してしまっただけです。絶対答えたほうがよかったと後悔していて、これが一番の減点です。

たくさんのもをもらった、

私のもう一つの居場所

そこでしか得ることのできないたくさんのもをもらった10日間。今まで過ごしてきたなかで楽しかった日を10日分集めても、オーストラリアで過ごした10日間に勝るものはないと思います。それほど充実し、とても内容の濃い10日間となりました。

ブリスベン空港に到着するまで、CAさんやチャンギ空港のお店の人と話していたら出発前よりも少し緊張がなくなり、いい練習になりました。しかし、わくわくした気持ちはバディと対面するときになった瞬間、緊張へと変わりました。みんなと別れて車に乗ったときは、一気に不安になりました。「10日間も英語だけ

の環境で過ごすなんて無理だ...」と、何度も思ったことをすごく覚えています。しかし、そんな考えを吹き飛ばしてしまうようなことばかりの毎日でした。とにかくみんなリアクションが大きく、日本のことを教えると、とても興味を持ってくれました。ホームステイ 2 日目の夜、日本から持ってきたお土産とお菓子をわたすと、とても喜んでくれました。



帰国 2 日前に日本のカレーと一緒に作ったのですが、すごく驚いていて面白かったです。家族全員には無理でしたが、スクールバスの中で小野田の伝統の龍舞についてバディの Hunter に話しました。文化を教えら

れてよかったです。家の中でも、平気で犬の Ekka と全力で遊ぶ家族に交じって一緒に遊んだときは、すごく楽しかったです。Flanagan 一家は動物好きで、家にはたくさんの動物がいました。ホームステイ中に新たにモルモットがもう一匹増え、みんなの心の温かさに触れました。夜には、Hunter とママの Nicole と 3 度 UNO をしました。作戦で Nicole とお互いにだましたり、とても面白かったです。完璧に言葉が伝わらなくても、乗りでなんとなく盛り上がれて、一緒に楽しめたこの時間がとても好きでした。不安が消えて笑ってばかりの 10 日間にしてくれたホストファミリーには、感謝の気持ちしかありません。家でも車でもどこでも面白い Flanagan 家は、私が居やすい温かい場所を作ってくれました。ありがとうございます。

そんな家族と過ごすなかで見つけた、日本との相違点がいくつかあります。まずは、家での過ごし方です。のどが乾いたら日本では基本、お茶を飲みますね。しかし、オーストラリアにはないので、水道水を飲んでいました。水が貴重な国なのになんかもったいないなと思い、持ってきていたほうじ茶をたくさんわたしました!! Nicole が一番喜んでくれました。次は、睡眠時間です。日本では、中学生から大人まで幅広く、多くの人が夜更かしをしています。いけないことですが、中学生では 12 時過ぎても起きているのが当たり前になっていると思います。しかし、オーストラリアの人たちは違いました。ホームステイ初日の夜 8 時頃、Hunter から「Good Night. 」と言われました。それ

からも、みんな 9 時前には部屋に入って寝ていました。最初は慣れないと思っていましたが、案外すぐに眠れて、朝気持ちよく起きられました。ハイスクールで仲良くなった子に日本の睡眠時間を教えると、とても驚いていました。お互いの生活習慣について教えあえて、学校でも驚くことだらけでした。一つ目は、校舎の模様です。昔を感じられる古風な日本の校舎とは違い、オーストラリアはとてもおしゃれでした。いた



るところにおしゃれなペイントがされており、学校内を歩いていて全く飽きなかったです。それに、設備もすごかったです。テラスがいくつ

もあり、学校のあちこちで食事 OK な外国でしか見られない光景でした。また、バスケットコートやいろいろなスポーツをするための広い広場があって、そこで体育の授業をするなど、とにかく敷地が広がっていました。二つ目は、授業内容です。小学校で授業に参加したとき、低学年が数学の難しい勉強をしていて、私はついていけませんでした。小学校では、私たちが今習うようなことを習っており、学習のレベルの高さに驚きました。それと、誕生日の祝い方にも違うことが



ありました。私が行ったクラスに誕生日の女の子がいたので、みんなで祝いました。それが、日本と同様の歌を歌った後、何かの掛け声をして最後に歳の数だけ数える、という祝い方でした。その後、誕生日の女の子が持ってきてくれたお菓子を食べたのですが、とても甘かったです。誕生日という貴重な日に行けたことで、良いイベントを見ることが出来ました。一番驚



いたのが、学校の規則です。日本では基本的に禁止されている頭髮、スマホ、ジュース、ピアス、食べ物のすべてが OK でした。授業の様子を見

ていて、日本とオーストラリアの学校の目的が少し違うように感じました。日本は、規則がしっかりとっていて知識をしっかりと身に着けるという感じがします。オーストラリアは勉強を楽しむ、という感じがしました。



そう思った理由の一つとして、私が授業中に寝ている人を見ることはありませんでした。授業では、動画やゲームを取り入れてい

て、みんなが楽しめるような工夫がされているように思えました。また、スマホをいじっていても先生の話はきちんと聞き、音も流さないなど、きちっとけじめがついているからこそ許されるのだなと思いました。私が見た授業は、本当にいいものでした。みんなが積極的に取り組んでいて、いきいきとしていました。寝ている人をよく見かける日本の授業でも、そのようになれるといいと思います。

驚くことだけでなく、いいところもを見つけました。それは、フレンドリーさです。どの学校でも、私たちにたくさんの方が話しかけてくれました。どんどん話しかけてくれたので、こっちもすぐ答えやすかったです。ホストファミリーもそうでした。特に Nicole は、出かけた場所であ会ったほとんどの人に声をかけていて、店員さんとはいつも楽しそうに話していました。日本人は礼儀がいいのでこんな光景は見ないため、新鮮でした。

帰るときは、出発するときには考えられないくらい楽しい気持ちでいっぱいでした。この10日間で、たくさんの



ものを知り、たくさんの思い出をもらい、もう一つの家族と出会えました。日本ではできないような体験もでき、そこでしか得ることのできない感情も得ることが出来ました。このような経験が出来たのは、私を選んでくださった方々がいたからです。私を選んでいただいた方々、本当にありがとうございます。このような経験ができたこと、本当に嬉しく思います。オーストラリアで学んだことは、必ず将来へとつなげたいです。このような貴重な機会を与えてくださった多くの方々に感謝いたします。ありがとうございました。

ホームステイ報告書

私のホストファミリー Flanagan 家は、「陽気で面白い」という言葉が一番似合っていると思います。持ち前のハイテンシ



ョンで、いつも笑わせてくれました。そんな Flanagan 家には、とても感謝しています。

ガチガチだった私を最初にほぐしてくれたのは、ホストマザーの Nicole とバディの Hunter でした。初日の学校帰りの車内で2人は、黙っていた私にたくさん話しかけてくれました。しかし、はやく答えなかったのに、なんと言っているのか分からず固まってしまって、笑って流してしまいました。絶対にしなくなかったことを初日にやってしまい、とても後悔しています。それでもマザーは、移動中の車で住んでいる周辺について、たくさん教えてくれました。私がかかっていたら、ゆっくりと、ジェスチャー付きで話してくれました。夜には何度か、Hunter も入れて3人で UNO をしました。いつも私に合わせて話して優しく接し、オーストラリアについてたくさん教えてくれた Nicole には本当に感謝しています。

バディの Hunter とは、最初に会ったときには考えられないくらい仲良くなりました。最初は、話が伝わらなかった私と翻訳機を使って話していました。翻訳機は使いたくなかったのですが、一生懸命話そうとしてくれたことがと



とても嬉しかったので、なかなか言えませんでした。ホームステイしてちょうど一週間が経った金曜日。Flanagan 家と友達夫婦で海に BBQ に行きました。食べ終わった後、弟の Xander と Hunter と遊びました。それがとっても楽しくて、とっても遅いですが、多分この日が一番仲良くなった日だと思います。海沿いを歩いているときには私が動画を撮っていると、Hunter がふざけて変なことを言いながら映り込んできて、遊具では、Xander も一緒にたくさん遊びました。家についてからも、早く寝たいのに Hunter が部屋から出な

くて、「寝かせないよ」と言われました。遅くても、こんなに仲良くなれたのがとても嬉しかったです！Xander や Storm とはあまり話せなかったですが、一緒に犬の Ekka と遊んだのはとても楽しかったです。



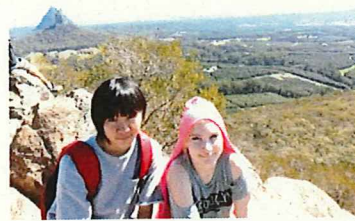
休日には、オーストラリアの自然を体験しました。私たちが行った City の周辺は、日本では見ないようなごつごつした山がたくさんありました。そ

の中でも比較的登りやすい Mt.Ngungun に、Hunter と友達夫婦と登りました。登る最中、3人は何度も私の体調を気遣ってくれ、本当に優しくかったです。頂上から見た景色は、モートンベイの自然の雄大さを感じられ、とてもきれいでした！その後に行ったビーチで見つけた不思議な魚について、奥さんがたくさん教えてくれました。「やっぱり私が住んでいるところとは違うな」と思うほどきれいでした！さらに、ビーチからの帰り道に寄った公園には、野生のカンガルーに出会いました。こんなことは日本では絶対にありえません。この一日で、日本ではできない大自然を堪能することができ、とてもいい経験ができました。



でも、一番楽しかったのは車内での会話です。話の内容全ては分からなかったですが、それでも面白さは伝わってきました。Nicole は流れている曲に合わせてふざけて大熱唱するし、Hunter は私にちょっかいをかけてくるし、Xander は Nicole の歌を止めようとしていたので、車の中はいつも騒がしかったです。でも、そんな騒がしいところが楽しくて、とても居心地がよかったです。

初めて家に行ったとき、私はガチガチでした。英語だけの環境で 10 日間過ごすなんて想像できませんでした。でも、初日の Nicole と Hunter のテンションでそんな気持ちはすぐにとばされてしまいました。お別れのとき、みんなが泣いているなか、私たちは少しも泣かず、笑っていました。悲しかったのですが、Hunter たちといるとやっぱり笑ってしまいました。これが、私たちらしい別れ方だったなと思っています。最後には、Hunter とは翻訳機なしで話していました。Hunterのおかげで勇気が出たので、「翻訳機使わなくていいよ」と言うことができたからです。完璧には聞きとれないこともありましたが、ジェスチャーで思いっきり表現すると伝わることもありました。ときには、単語をバン、バン、バン!!と繋げることもありました。それでも伝わったときに感じた嬉しさは、その場でしか感じる



ことのできない、いつもとは違う嬉しさだったと思います。私は、この 10 日間で確実に成長しました。英語を聞き取れるようになったのはもちろん、自分から話しかけたり、分からなかったら分からないと素直に伝えたりすることが出来ました。それができたのは、私の英語を最後まで一生懸命聞いてくれたホストファミリーのおかげです。10 日間で見たもの、知ったこと、教えてもらったことを家族や友達に伝え、オーストラリアの文化を広めたいです。

私を受け入れてくれた、仲が良くて動物好きで面白い Flanagan 家。本当に感謝しています。楽しい 10 日間をありがとう!!もう一つの家族、Flanagan 家。

ホストファミリーの紹介



Flanagan 家

母 Nicole 姉 Storm

バディ Hunter 弟 Xander

犬 Ekka 亀 Captain Tiny 鳥 Sprite

モルモット Frankie, Strawberry 猫 Meeka



厚狭中学校3年

いわた まゆこ

岩田 真由子

1計画(PLAN)

○英語の上達

○コミュニケーション能力の向上

出来るだけ多くの人と話す。そのために行く前にも調査をする。

自ら積極的に話しかけていく。言いたいことが英語で何と言うか分からなくても分かる単語を並べたり、ジェスチャーを使って伝える。写真をたくさん撮っておいたり、日常生活でよく使う言葉をメモする。そして、帰国してから復習が出来るように工夫する。

英語の上達やコミュニケーション能力の上達だけでなく、オーストラリアの文化なども体感したい。様々な人とのふれあいを大事にしていきたい。

2実行(DO)

初日は思うように話しかけることが出来ず、不安や心配などマイナスの感情ばかり感じていました。しかし、話しかけてみるとだれもが一生懸命理解しようとしてくれて、とてもうれしかったです。そして、もっとたくさん話したいと思うようになりました。言いたいことが英語で何と言えればいいか分からなくても理解しようとしてくれるから、私も言いたい、伝えたいとより思いました。同じ人だけでなく様々な人に話しかける事が出来ました。

3評価(SEE)

☆85点!!☆

初日からは思うように話しかけることが出来ず、後悔しています。話しかけておけばもっと楽しめたと思うからです。だからこれからは挑戦することにためらいや、はじらいを持たず積極的にやっっていこうと思いました。挑戦すれば、自分の

中での新しい発見につながり、もし失敗をしたとしても全てが良い経験になると思うからです。何事にも自ら積極的に取り組んでいきます。

6年間の夢が叶って

私がこの派遣事業を知ったのは、小学校4年生の時でした。兄の文化祭を見に行くと、派遣に行かれた先輩がオーストラリアでの経験を発表していました。それまでに英語の勉強をしたことも、海外に興味を持った事すら1度もありませんでしたが、この発表を聞いてからは海外に興味を持ちはじめました。

そしてついに今年、念願のホームステイが決まり、本当にうれしかったです。オーストラリアについて事前に調べて行ったものの実際に行くと、やってみることで得られる事の方が多いと思いました。



例えば睡眠時間です。私のホストファミリーは8時に寝て9時に起きていました。私のホストファミリーが特別長いのかと思い、学校のバディや日本語クラスの人にたいてい何時に寝るか聞くとみんな8時くらいだと言っていました。私はたいてい10時に寝ると言うと、とてもおどろかれました。また、オーストラリアは日本より水資源が乏しいと知りおどろきました。オーストラリアは島国だから水資源にはゆとりがあ

る印象でした。実際に体験することで国の違いをしっかりと学ぶ事が出来ました。

これからは調べるだけでなく様々なことに挑戦していきます。そして英語だけでなく様々な国の文化を学んでいきます。



ホームステイ報告書

私のホストファミリーはとても面白く、一緒にいてとても楽しかったです。

オーストラリアに行く前から彼女たちとはメールでやりとりをしていました。メールで「好きな歌手は誰？」と聞かれ「テイラー・スウィフト！！」と答えました。ホームステイ3日目、メールでそのようなやりとりをしたことを忘れていたところにマザーのララが「マユコ、テイラー・スウィフト好きでしょ？」と言ってその日の車で、ずっとテイラーの曲をかけてくれました。彼女たちの優しさがとてもうれしかったです。



また、バディのリアナにはとても助けられました。家族と話しているとき、どんなに頑張っても伝えられない時や、言われていることの意味がよく分からないことがありました。そんな時、リアナは流暢な日本語で通訳をしてくれました。ホームステイ6日目の夜、日本から持っていった物を説明しながらあげていました。一緒に手巻き寿司をしようと寿司酢を持って行っていたけれど「どうやって作るの？」と言われ英語で上手く説明出来ずにいるとリアナが「日本語



でいいよ」と言ってくれて日本語で説明しました。するとリアナが通訳をしてくれて、ララに伝えることが出来ました。その後リアナが日本語で「いつもお母さんが作るお寿司は酢が多くてすっぱい～」と言ったので2人でララの方を向いて笑うと、ララに「何!？」と言われました。するとリアナは「日本語だと秘密の話が出来ていいね～。お母さんたちには分からないから」と言ってまた2人で笑いました。私はこの会話で、外国の人でも自分の国の言葉を話されるととても親近感がわく気がしました。だから私ももっと英語の勉強をして会話が出来ようになりたいです。

ホストファミリーにはとてもお世話になりました。来年ホストファミリーが日本に来る事が決まったので、その時はもっと流暢な英語で歓迎したいです。



ホストファミリーの紹介

Pope 家

父 John

母 Lara

娘 Liana

娘 Jasmine



小野田中学校3年

いわだて ようこ

岩館 瑤子

1計画(PLAN)

私の今回参加するにあたっての目標は2つあります。1つめは英語でのコミュニケーション能力を向上させることです。今の私は、英語を話すときに失敗を恐れてしまいます。しかし、今回たくさん英語で話すチャンスがあります。だから、現地の人たちとたくさん会話をし、言いたいことを必死に伝えようと思います。そして自信をつけたいです。2つめは、日本のことをしっかり伝え、現地のことをしっかり知ることです。そのためにもコミュニケーションを大切に、積極的に現地の人と話そうと思います。

2実行(DO)

積極的に話そうと思っていたけれど、初日は緊張してあまり話すことができませんでした。でも、それをすぐ後悔したので次の日から、たくさん話してみました。文法などぐちゃぐちゃだったと思うけど、一生懸命話してみると、くみ取ってくれました。分からない単語などがあると、ジェスチャーをしてもらったり、「For example?」と聞いたりして理解することができました。そうした単語は自然と頭にのこっています。そして、私が伝えたかった日本のこともすべて伝えました。たくさん質問してくれたり、「nice!」といってくれたりして、日本人であることがうれしく感じました。

3評価(SEE)

☆100点☆

最初は緊張してあまり話せなかったけど、次の日から恐れより、話したいという気持ちが勝って、たくさんコミュニケーションをとることができました。自分の意志や日本のことをしっかり伝えることができました。これからは、外国の方に会ったらきちんと話することができるので、たくさん会話をし、もっと英語力を上げて、自分の英語が人の役に立つようにしたいです。

貴重な経験

私は、10日間でとても成長することができました。

初日は、緊張してあまり話すことができませんでした。しかし、これではいけないと思い、失敗を恐れず、積極的に話してみました。そうすると、私の未熟な英語も一生懸命聞いて、理解しようとしてくれました。そして、自分の言いたいことが伝わるととても嬉しくて、もっと話したいという気持ちになりました。伝わらなかった場合はジェスチャーをしたり、例えを出したりすると、単語を教えてくださいました。そうした単語は、自然と今でも覚えています。



そのなかでうまく伝わらなかったこともありました。私は「take a bath」と言ったつもりが「take a bus」と思われて、会話がおかしくなりました。このとき、私は発音の大切さを学びました。

そして、互いの国のいいところを見つけました。私が1番驚いたのは学校でした。昼食は日本より早く、ピას、ネックレスなどをしている人もいました。



そして帰る時間も14時40分と早かったです。グラウンドはとても広かったです。景色もとてもよいところでした。透きとおった海とたくさんのきれいな建物などがありました。他にもおいしい食べ物やめずらしい動物がいました。

そして、日本にいても気付かなかった日本のよいところも見つけました。

まずアニメです。日本のアニメは現地の人のほとんどが知っていました。アニメの話をすると、みんな目を輝かせて聞いてくれました。

次に食文化です。日本のお菓子やら一めん、かつ丼などはとても人気がありました。そして、車です。オーストラリアを走っている車のほとんどが日本の車でした。

私は今回の派遣で海外にもっと興味がわきました。今までより英語をたくさん勉強して、身についたコミュニケーション力を活かし、海外でも通用するような人になりたいです。そして文化の違いをたくさんの人に伝え、異文化理解と共に、日本文化を誇りに思ってもらいたいです。

ホームステイ報告書

私のホストファミリーは、やさしくておもしろい理想的な家族でした。

まず初めて会った日に Mom と Dad がハグしてくれました。そしてお土産を渡すと「So cute!」と言ってくれました。Talía はキーホルダーをリュックにつけてくれたり、Mom と Dad はすぐにあげた T-shirt に着替えたり、ポストカードを冷蔵庫に貼ったりしてくれました。

海に行ったときは、つりをしたり、ランチをしたり、ボールで遊んだりしました。つりをするのは初めてだっ



たけれど、丁寧に教えてくれました。他にもブリスベンの街、遊園地、ショッピングモールなどに連れて行

ってくれました。ブリスベンの街では、ボートや観覧車に乗らせてくれました。帰りは、Sycamore tree の葉をみんなでながら帰りました。また、スーパーに行ったときは、みかんを食べながら帰りました。帰りながら家族と遊ぶことはあまりないのでとても楽しかったです。この10日間 Miles 家と過ごして、たくさんの経験をすることができました。

そんな Miles 家の Dad はとてもおもしろい方でした。いつも Dad のジョークで笑っていました。また、Talía とこわいゲームをしていたり、家の中を移動していたりするときには驚かせてきました。海に行ったときには、海に落とされそうになりました。そんなことにも笑わかされました。かつ丼を作っているときには、「Smells good!」と言ってきて、食べているときに料理が上手だと言ってくれました。Dad は私を本当の娘のように愛してくれました。そんな Dad が大好きです。

Mom は私をいつも認めてくれました。私は今回の派遣でやりたいことがたくさんありました。その度に Mom に「～していい?」と聞くと「Sure!」と言って喜ん



でくれました。そのおかげでやりたいことをすべて達成することができました。帰る前の日は「やり残したことはない?」と聞いてくれました。Mom は本当にやさしくて何でも打ち明けることができました。そんな Mom のおかげでこの10日間はとても充実していました。そして Mom はいつも笑っていました。そんな笑いに誘われて私も笑って楽しむことができました。かつ丼、プリン、キャラ弁を作ったときには、いつも「My Favorite」と言ってくれました。Mom も私を本当の娘のように愛してくれました。そんな Mom も大好きです。

Ashleigh は、私を気にかけてくれました。あまり話すことはなかったけれど、お出かけしたときには、「～いる?」と聞いてくれました。遊園地に行ったときには私の服を「Nice!」と言ってくれました。Ashleigh はお肉が食べられなくて、かつ丼を作ったときに Ashleigh だけ別のメニューの魚だったけれど喜んでく

れました。キャラ弁を作ったときは Ashleigh が食べられるものは少なかったと思うけど、おいしいと言って文句言わず食べてくれました。Ashleigh は本当に美人でした。

そしてバディの Talia とはたくさんのことをしました。1日目は日本のアニメとドラマと一緒に見たり、ゲームをしたりしました。Talia はオーストラリアのアニメは日本のものほどおもしろくないと言っていました。2日目は2人で絵を描きました。Talia が好きな日本のアニメのキャラクターを描いてプレゼントすると喜んでくれました。3日目は私がやっている剣道を紹介しました。英語で説明するのはとても難しかったけど、Talia がたくさん質問してきたので興味を持ってくれたのかなと思いました。動画を見せたときは「cool!」と言ってくれたのでうれしかったです。4日目は「笑」という漢字を教えました。Talia はとても字が上手でした。5日目はかつ丼と一緒に作ったり、お土産で持ってきたマンガと一緒に読んだり、スピーチ大会での「泣いた赤鬼」を聞いてもらったりしました。読み終わったら Mom が遠くから「Sad…」と言っていました(笑) 6日目は持ってきたプリンキットでプリンと一緒に作りました。プリンはあるけれど日本の方がおいしいと言ってくれました。7日目はショッピングセンターに行って、物を買うときにはいつもつきそってくれました。8日目

は折り紙と一緒に折りました。最初は教えていたけれど分からなくなったときは Talia から教えられました(笑) 二人で教え合いながら難しいドラゴンを折ることができました。そしてキャラ弁の紹介もしました。9日目はキャラ弁を作って見せると Talia が「Oh my God!!」と言ってくれました。そして海に行ってみんなで食べました。帰ってからはダンスをしたり、トランプをしたりしました。10日目は Dad にカヤックを教えてもらいました。帰りは日本の音楽を紹介したり、オーストラリアの音楽を紹介してもらったりしました。私は、オーストラリアのバンドが大好きになりました。さむい日には湯たんぽブランケットを用意してくれたり、顔がかゆくなったときには家族が集まって心配してくれたり本当に温かい家族でした。こんな家族が私のもう1つの家になるなんて私は本当に幸せだと思います。絶対にまた戻って来たいです。本当に Mom、Dad、Ashleigh、Talia、Puddles が大好きです。



ホストファミリーの紹介

Miles 家
父 Jason
母 Cheryl Helsby
娘 Talia
娘 Ashleigh
猫 Puddles



高千帆中学校3年

かねこ みゆ

金子 瑞優

1計画(PPLAN)

「積極的に話すこと」

とにかく自分に自信をもって話せる精いっぱい英語を話すこと。英語が思い浮かばなくても、単語を並べたりジェスチャーをしたりしてコミュニケーションをとる。

2実行(DO)

午後、ひまですとテレビを見ていたとき、「折り紙しよう。」と言ってつるを折ったことです。

私はバディに折り紙をプレゼントしていたので、それを使って折りました。バディは「つるを折りたい。」と言ったのでつると一緒に折りました。

私がさそわなかったら会話もできなかったし、日本の文化にふれてもらえて良かったです。

3評価(SEE)

☆85点☆

どうしても自分の英語力で伝えられないことは翻訳アプリを使ってしまったので後悔しています。

でも、聞かれたことは簡単な英語でもいいから自分で答えるようにしていました。もう少し英語を勉強していればもっとたくさんの会話ができていたかもしれません。

英語をもっと勉強してもう一度海外に行きたいです。日本は小さかったんだと思い、他の目線から日本を見ることができました。これからは物事をもっといろんな目線から考えたいです。

言葉がなくても笑顔があれば

10日間は私にとって一生の宝物になりました。

初めての海外で見るもの全てが新鮮でした。「私はこれからここで10日間過ごすんだな。」とかなりわくわくしていました。しかし、ホストファミリーに会い、車に乗ったとき、私以外に日本語を話せる人はいないのだと今さらながら気づきました。「10日間、私と親しい人や助けてくれる人はいない。」と急に不安になってきました。そう思い始めていた車の中で、私のホストマザーはすごく優しくしてくれました。優しいだけじゃありません。すごくおもしろい方でした。私が黙



っているときもにこっと笑ってくれたり、ある時は「You are very funny!」と言ってくれたりしました。そしてバディもやはり親子だからかマザーと一緒にふざけて私を笑わせてくれるのです。



ホームステイ報告書

ホストファミリーだけではなく、ハイスクールの人たちもよく笑っていました。私たち日本人を見ると必ず笑顔で「コンニチハ！」と言ったり手を振ってくれたりします。そしてその全員は必ず笑顔でした。私は彼らを見ただけで緊張がほぐれ、自然と笑顔になっていました。「笑顔が一番。英語はその次。」という風に思うようになっていきました。



私はこの10日間のほとんどのコミュニケーションを笑顔でやってきたとも言えるほどたくさん笑いました。本当は英語が大切なかもしれませんが、帰国してから言葉より先に笑顔が出るようになったと思います。

もう1つ、帰国してから感じたことは動物に慣れたことです。滞在中に馬、ラット、ひよこ、ネコとたくさんの動物とふれ合いました。私はもともと動物が嫌いだったわけではありませんが、どこかで怖いと感じていました。でもどこかで吹っ切れたようにいつのまにか怖いと思わなくなっていました。自分が気づいてい



ないだけで他にもこくふくしたことがあるかもしれません。

私は海外派遣に行つて本当によかったと思っています。笑顔を忘れずこれからも過ごしていきたいです。

ホストファミリーは私を家族のようにしてくれました。さきほどと内容が同じになりますが、3人とも優しくおもしろかったです。そして本当にいろんな体験をさせてもらいました。

特に印象的だったのは2泊3日でキャンプをしたことです。家から車で3時間のメアリーバラというところに行きました。そこには4人のおじいさんとおばあさんが住んでいました。まわりは木で囲まれ、森のようでした。そこでは一頭ロッキーという馬を飼っていま

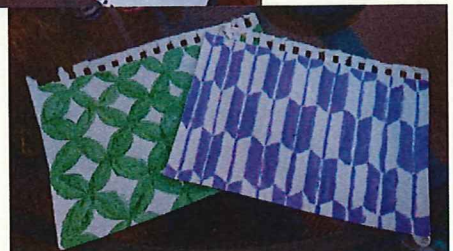


した。初日の夜、キャンプファイヤーのようにたき火をしました。夜空を見上げると日本では見ることのできない美しい星空が広がっていました。その夜はキャンピングカーで眠りました。2日目は街に行きました。その街はメリーポピンズの作者の生まれ育った場所でした。バディやみんなは「ここで生まれ育ったことに誇りをもっている。」と話しました。ロッキーにも乗りました。そこに住んでいるおじいさんはロッキーに「Good boy Locky」と何度も言います。これは日本語で「ロッキーいい子だ」という意味だと分かりました。

家に帰った日、私はバディと庭で絵をかきました。何をかこうか迷いましたが



日本の和柄をかくことにしました。1枚目は矢絰を2枚目は七宝繋ぎし



っぽうつなぎ)をかきました。かんのいいマザーは1枚目を「何だか矢みたい。」と言いました。「この名前は矢という漢字を使っています。」と答えました。そしてごきげんなマザーはリビングのたなにそれらをかざりました。

ある日、バディはバイオリンとピアノとギターがひけると言いました。そしてギターをひいてみせてくれました。トビーはドラムがたたけるそうです。同じ音楽をする人として親近感がわきました。

最終日、トビーはいませんでした。3人に手紙をわたしました。マザーは「ハグしよう。」とハグしました。別れるとき、「またいつでもきてね。」とマザーは言い3人でハグをしました。私はすごく泣いてしまいました。

こんなホストファミリーに出会えて感謝しかありません。10日間で私にはもう1つの家がありました。次は1人で遊びに行こうと思います。



ホストファミリーの紹介

Behrens 家

母 Christine
娘 Eva
息子 Toby



高千帆中学校3年

かわぐち はるか
河口 春伽

1 計画 (PLAN)

- ・英語の上達
→自ら話しかける
- ・現地での文化に触れる
→現地の文化によく目を向けて、分からないことや、もっと知りたいことがあれば聞く
- ・英語力の評価
→小学4年生から習ってきた英語がどこまで通用するかためしてみたいので、間違えてしまったら、その部分をしっかり学びなおしたい

2 実行 (DO)

- ・なるべく文で話すこと
→文法があまり理解できてなかったなので、そこを復習したい
- ・もし聞きとれなくても恥ずかしがらずに「Pardon?」と聞いてみたこと
→聞きとれないままで行動するより、恥ずかしがらずに聞いたことで、今から何をするかや、家のルールなどが分かったのがよかった
- ・自ら話しかけること
→自ら話しかけることでコミュニケーションのとり方がよくなったと思う

3 評価 (SEE)

☆90点☆

10点減点の理由は、最初の2、3日はあまり自ら話しかけることができなかったからです。緊張してしまっても、自ら話すことが大切なんだと痛感しました。

私は今後、今回の研修で学んだことを、将来、大きな壁を乗り越えることに活かしていきたいと思います。この経験はまちがいなく、よい方向へ活かすことができるので、無駄にしないようにしっかり活かしたいです。

かけがえのない経験

私はかけがえのないものをオーストラリアの方々からもらいました。

初対面なのに、積極的に話しかけてくれたことにびっくりしました。私は英語をあまり分かっていなかったし、自ら話しかけることもあまり得意ではなかったのですが、オーストラリアの方々には積極的に話しかけることができていて、とてもすごいなと思いました。でも、日本に



帰る頃には、よくオーストラリアの方々と話することができていました。これはオーストラリアの方々がお話す機会を与えてくれたからだと思います。また、オーストラリアの方々には私にとってもいろんなことを教えてくれたり、体験させてくれたりしました。とてもうれしかったです。



ホームステイ報告書

ホストファミリーの Palmer 家の方々は、とても私のことを考えてくれていました。何か不安なことがあれば、ホストマザーの Megan に聞くと、親身になって教えてくれました。バディの Bree はいつも話しかけてくれてとてもうれしかったです。私はホストファザーの Craig のことは「Dad」、ホストマザーの Megan のことは「Mom」、バディの Bree や妹の Charli、弟の Lincoln はそのまま名前呼びました。みんなは私のことを「Haruka」と呼んでくれ本当の家族のように接してくれました。



オーストラリアと日本の生活の違いにも驚きました。まず、オーストラリアの方々は夜更かしをしないことです。夜の8時くらいになると、みんなが「Good night」と言って自分の部屋に入ってしまう。「日本では夜更かしするよ!」と Bree に言うと、とても驚いていました。

次に水の使う量です。オーストラリアでは水が貴重でした。食器は毎食後ではなく、まとめて洗い、シャワーは2日に1回、洗濯は4、5日に1回、ペットボトルの水もとても高かったです。それは北半球の温暖化が影響して降水量が少ないからです。これからはこのような事態を受け止めて生活したいと思いました。

学校生活でも、日本と違うことが多かったです。授業時間は日本より2時間位少なく、放課後の部活もありませんでした。授業はパソコンや iPad などの電子機器を使っており、幼稚園生も電子機器を使って勉強していることに驚きを隠せませんでした。

今回の経験は、オーストラリアの方々から、話しかける勇氣やいろいろなことを教えてもらいました。このような経験をさせてくださった方々、また海外派遣をする機会を与えてくださったすべての方々に感謝しています。ありがとうございました。

ホストファミリーの方々はとても楽しく、優しく、温かく、明るい方々でした。

ホストファザーの Craig はとても大らかな人でした。私が「オーストラリアのスポーツをみてみたい!」と言ったところ、仕事帰りで疲れているはずなのに、「今から試合をみにいくよ!」と言ってくれ、とてもうれしかったです。また、彼はとても料理が上手で、私は彼の料理が大好きでした。

ホストマザーの Megan は話していてとても楽しい人でした。私が英語をうまく話せなくて、落ち込んでいるといつも笑わかしてくれ、とてもありがたかったです。おかげで、最後の日のほうは楽しんで英語での会話ができるようになりました。

バディの Bree はとても優しい人でした。私のために昼ごはんをつくってくれたり、一緒に遊んでくれたりして、とてもうれしかったです。妹や弟は、とても明るい人たちでした。いつも話しかけてくれて、とてもうれしかったです。



Palmer 家は私をいろいろな所へ連れて行ってくれました。学校から帰ると「どこか行きたい?」といつも聞いてくれ、私が「ここに行きたい!」と言うと「OK!」と言って、連れて行ってくれました。

特にうれしかったのは、ショッピングモールで「お土産を買いたい!」と言うと、一緒に選んでくれたことです。本当にありがたかったです。私は Bree の祖父母とも過ごしました。Bree の祖父母は私を「Ekka」というところに連れて行ってくれ、いろいろな物を買ってくれました。さらに、ゴールドコーストにも連れて行ってくれ、とてもよい思い出ができました。

Bree のおじさんやおばさんとても優しい方々

で、「ミートパイを食べたい!」と言うと、わざわざ買ってきてとてもうれしかったです。

私はこの Palmer 家がとても大好きです。いつも私を迎えいれてくれ、とても感謝しています。私はいつもしてもらばかりで、何も恩を返すことができてないので、必ずまた会って恩返しをしたいです! 本当にありがとうございました!



ホストファミリーの紹介

Palmer 家
父 Craig
母 Megan
娘 Bree
娘 Charli
息子 Lincoln



厚陽中学校2年

ひろなか たいち
廣中 太一

1 計画 (PLAN)

自分は英語での会話能力や国際感覚の向上やオーストラリアでの礼法やいろいろな規則を体験することを通して知ることを目標にします。

そのためにホストファミリーと積極的に話し会話を弾ませること。あらかじめ英語で話す話題を考えておくことと、日本と比較してどのような礼法や規則の違いがあるか考えながら今回の事業に参加することです。

2 実行 (DO)

レッドクリフハイスクールでは、先生が話しているときにスマホをいじったり、水を飲んだりしている人がいて驚きました。女性はピアスをつけている人もいました。日本がお辞儀に対してオーストラリアは握手がいさつでした。

ホストファミリーはとても積極的に話し会話を弾ませることができました。これはあらかじめ英語で話したい内容を考えておいたのでできました。ですが、突発的な会話に弱く、単語が分からず伝わらないこともあり、和英辞書や英和辞書を使いながらの会話があり、自分の英語力の少なさを痛感しました。

3 評価 (SEE)

☆90点☆

ー10点の理由は、英語を話すときの文法がおかしかったり、現地の人にゆっくりと言ってもらわないと何を言っているか分からなかったりしたからです。今後、この経験を将来の夢の実現に役立てたいです。あと、自分が英語を話すときの速さがとても遅いことがよく分かったので、速く英語が読めるように練習します。

色々な事を学べた貴重な日々

自分は今回のホームステイで沢山の事を学びました。

オーストラリアに着く前は楽しみとちょっと不安ぐら

いでしたが、オーストラリアに着くと不安や緊張が出てきてバディの Sonny と Mom と買い物をしているときに何を喋っていいか悩んでいると、Sonny がこう言いました。「あなたは最初は戸惑うだろうけど考えて、日が過ぎるごとに理解できるようになっていく。」それがとてもうれしくて、そこから気軽に思った事を言えるようになりました。

オーストラリアと日本とでは色々な文化や規則の違いがありました。中学生が友達を家に呼び、泊りがけで遊ぶことがありとても驚きました。「こうゆうことはよくあるの。」と Sonny に聞くと、「ときどきだよ。」と答えてくれて、少し落ちつきました。また、ラグビーが国民的スポーツでした。ラグビーが有名な事は知っていましたが、まさかこれほど熱狂的に応援するとは思いませんでした。そして、ラグビーが面白い！と思っていましたが、怪我が嫌なので観るだけならいいですが、するのは嫌です。



そして交通規則ではシートベルトの着用が義務付けられていました。それを着用しないと車が出発できないほどです。他にもオーストラリアには給食の文化はありませんでした。そのためホスト Mom が学校に通学するときはランチボックスを作ってくれました。なので、給食のありがたさが改めて分かりました。日本での当たり前は世界には通用しない事を身に染みて感じました。

オーストラリアでの礼法は手を振ることや握手やハ

グが一般的なあいさつでした。

平日はレッドクリフ・ステート・ハイスクールに登校しました。全四校時あり、二校時目と三校時目の間に休憩時間がありました。そこで昼食を食べる生徒もい



ました。そのとき質問攻めをくらいました。ですが、返せないことが多く、自分の英語能力のなさを実感しました。ですが、ゆっくり言ってくれと理解することができたの

で、会話は続きました。なので自分は現地の人が日常的に話すスピードを聞きとるといった問題が見つかったのでそれを克服できるように努力しようと思いました。

小学校を訪問すると、一番大変だったのは幼い子が容赦なく速く話す事です。聞き取るのが精一杯でした。なので、同学年の生徒達がとても気を使ってくれているのがよく分かり、とてもうれしかったです。休みには同年代の生徒達と走ったり、サッカーやバスケットボールをして遊びました。そして分かったことがあります。スポーツには集団を一つにする力があるということです。スポーツをする前は少し自分が戸惑っていましたが、スポーツをした後はとても仲良くなれました。すごくうれしかったし、自分のコミュニケーションも上手くなったと思います。

次にオーストラリアに行くときは日常会話が喋れて、現地の人の会話が理解できるほど成長しておきます。

この経験はグローバル化が進む時代に慣れるととてもいい事業でした。自分がこの海外派遣をここまで充



実したものにできたのは、この派遣の企画運営をしてくださった山陽小野田市とモートン

ベイ市の職員の方々の支えのおかげです。この派遣を将来に役立てるよう努力していこうと思います。そして、ホームステイさせてくださった Maxwell 家には、親孝行できるようにしたいです。最後に、この派遣事業に参加できたことを心から幸せと感じました。本当にありがとうございました。

ホームステイ報告書

ホストファミリーはとても明るく愉快な方々でした。ホストママは毎日自分の体調を気遣ってくれたり、おいしいご飯を作ってくれたり、とても優しい方でした。バディの兄の Logan はパソコンを貸してくれたり、一緒に卓球をしたり、自分の話しやすい状態を作ってくれました。バディの Sonny は初日に行ったショッピングモールで、自分が何を言えばいいかとまどっていると「あなたは最初はとまどうだろうけど、考えれば日が過ぎるごとに、理解できるようになる。」と断言してくれました。そこから、気軽に思ったことを言えるようになりました。そして本当に日が過ぎるごとに理解できるようになりました。

ホストファミリーとは色々な所に行きました。ショッピングモールや電気屋など色々な所に行ったのですが、その内の一部を紹介します。

8月11日土曜日、この日は Kroll 公園に行きました。そこはとても大きなドッグランでした。犬達はとてもうれしそうでした。公園に入ると犬達はずっと走っていました。その間公園の景色を眺めていると、色々な木がありその中に身長の数十倍もの高さの木もありまし



た。樹齢何年のものか聞こうと思いましたが、自分にその勇気がなく、言えませんでした。この日は、

Settlement cove というビーチにも行きました。このときも Sonny の友達 Jack と Mom と犬達と行きました。Mom が犬達の散歩をしている間、3人で砂浜でラグビーボールを投げたり蹴ったりして遊びました。ゲーム感覚でルールを作り遊ぶときもありました。例えば、ボールをもらう前に2回手拍子をするときは Sonny はフェイントをかけてきたりして大変でした。他には、ボールを後ろに向かってしか投げてはいけなとき、2人ともすごく速く走るので大変でした。一段落ついて海を見ると絶景でした。しばらくすると夕方になり夕日も絶景となりました。

8月12日、Sonny のラグビーチーム dolphins の試合を観に行きました。ラグビーは生で観るのは初めてだったので迫力に驚きました。その試合は 58 対 6 で圧勝しましたが、Sonny は軽い怪我をしまいました。この事からラグビーはとても危険なスポーツというイメージが強くなりました。そして Sonny に、「自分は危険なラグビーはしたくない。」と言うと、Sonny はそれをチームメイトに言いふらそうとするので、「でも観るのは面白い。」と言い止めました。



8月18日土曜日、この日は日本文化の紹介をしました。Mom と Sonny に大好評だったのは剣玉でした。本当は1つだけプレゼントする予定でしたが、自分のもあげました。他にも毛筆をしましたが、すごく苦手そうにしていたので実技が苦手なのだろうと踏み、折り紙も一緒にする予定でしたが自分1人で折りました。鶴と手裏剣をプレゼントしました。とてもよこんでくれました。そして50円玉や5円玉をわたすとネックレスにしてよこんでくれました。うれしかったのですが。なかなか複雑な気持ちになりました。Sonny はネックレスにせずに自慢していました。

ホストファミリーと過ごした日々がとても楽しかったし、自分にとってプラスになることしかありませんでした。

ホームステイ最後の別れるときに、Sonny がふざけて派遣者が乗っていくバスに乗っていて爆笑しました。

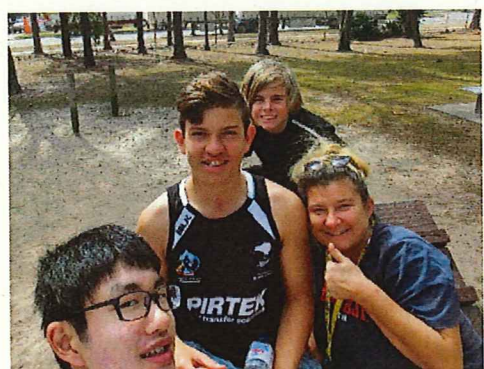
最後の最後まで笑顔にしてくれた Sonny

「いつでも帰っておいで。」と優しい Mom

いろいろ気にかけてくれた Logan

かわいいスケビーとスカイ

とても楽しいホームステイをありがとう。



ホストファミリーの紹介

Maxwell 家

母 Rowena

息子 Sonny-Ray

息子 Logan

犬達 スケビー、スカイ



埴生中学校3年

まきの なつみ
牧野 夏実

1 計画 (PLAN)

○コミュニケーション能力を身につける。

⇒・積極的に話しかけたり、会話したりする。

・うまく伝えられないときは恥ずかしがらずにジェスチャーをする。

○オーストラリアと日本の違い、似ているところを見つける。

⇒・ホストファミリーに日本のことを話す。

・オーストラリアの色々なことを聞く。

現地では、話そう、学ぼうという姿勢でたくさんの人と話したり、色々なことに挑戦したりして、英語力だけでなく、人間的にも成長したい。

2 実行 (DO)

はじめは緊張していたのですが、学校みんながたくさん話しかけてくれたり、ホストファミリーも緊張をほぐそうとしてくれて、間違っても、分からなくてもいいんだと思い、積極的に話しかけたり、聞き返したりしました。

ホストマザーの Tamaho は日本人で Amelie も日本語がペラペラでしたが、日常的な会話では、英語を使って話しかけました。違っているときは正しい言い方を教えてくれて、とても勉強になりました。

文化については、学校では、ほとんどの人がピアスをしていたり、授業でパソコンをみんなが使っていたりしました。かなり自由な感じでおもしろいなと思いました。そして、みんなとてもフレンドリーですぐに仲よくなりました。

日本と似ていたところは制服があったところで、他にはあまり見つけられませんでした。

言葉が通じなくても、「Hello!」や「Hi!」など声をかけ、笑顔でいると色々なコミュニケーションがとれました。

3 評価 (SEE)

☆70点☆

30点減点した理由は、英語力が足りず、話したい

ことも話せなかったことがあり悔しく思ったのと、もっとたくさん話しかけたら良かったなと思ったからです。

この派遣事業に参加して少し変わったような気がします。今まで消極的で人見知りだったのですが、もっと自分がやりたいことを積極的にできるようになったり、人と話すときも笑顔で話せたり、あたりまえのことかもしれないですが、自分にとっては大きな一歩が踏み出せた気がするのです。

そして、うまく話せなかった悔しさから、もっと英語を学びたいと思いました。海外にも関心をもつことができました。広い視野をもって日本のこと、世界のこと、自分の身近なことを見つめたいです。ぜひ、海外留学にも行きたいです。

この経験から、もっと英語が好きになりました。

わたしを変えてくれた場所

オーストラリアへ行く前の私は、不安より期待のほうが大きく、行くことが楽しみでしかたありませんでした。しかし、いざオーストラリアへ来てホストファミリーを前にすると、不安と緊張が高まり、うまく話せませんでした。そんな私にバディの Amelie はぎこちなくなりながらも話しかけてくれました。すると自然と伝えたいことが下手な英語でも口からでていました。

私のホストファミリーはマザーが日本人で、Amelie も日本語がたくさん話せるという、ホームステイにしては少し特別な家庭でした。そのおかげでたくさんの英語を教えてもらえました。オーストラリアの学生がよく使う言葉、ネイティブの英語特有の表現、オーストラリア特有の発音など英語にも色々あって「英語っておもしろいな」と感じました。

休日にはペリカ



ンパーク、ドギーパーク、緑いっぱいの公園などたくさん
の自然に触れることができました。日本ではあまり
見られないカラフルな鳥も見られて、オーストラリアは
本当に昔からの自然を守っているんだなと身をも
って感じました。その他にも、ショッピングに連れてい
ってもらったり、ホスト
マザーが先生をして
いる日本語学校にも
連れていってもらった
り、忙しい中私にたく
さんの経験をさせてく
れました。そのお返し
に折り紙をしたり、習
字をしたり、今の日本
のこともたくさん話し
たりしました。Amelie
は習字をするのがは



じめてだったようで、習字道具を見てとても興奮して
いまし
た。初め
て書い
た作品
をとて
大事に
してい
まし
た。ホス
トファミ
リと過
した時間は私にとって一生の宝物です。



次に学生生活です、それは私にとって驚きの連続で
した。特にピアスです。はじめはとても驚きましたが、
一緒にすごすうちにそれぞれの個性を表しているん
だなと感じました。オーストラリアでは冬でもノースリ
ーブや半ズボンなど季節感がなかったり、セーターや
ダウンジャケットを着ていたり、服装がバラバラでした。
このように、1人1人に個性があって、それが学校でも
同じで、自分らしく、自由にすごせる場所なんだと思
いました。それがわかって、レッドクリフステートハイ
スクールの生徒が毎朝「Hi!」や「Hello!」と言ってくれたり、
小学生たちも休み時間に遊びに誘ってくれたりして、
人見知りの私がいつのまにかすぐに仲よくなることが
でき、自分から話しかけることも多くなっていました。

それは私にとって大きな変化で、ずっと直したいと思
っていたことでもありました。最終日になるにつれ自
分であいさつをしていたり、家の犬にも「Good
morning.」と言っていたりしました。下手な英語や単語
をつないだ英語でも、みんな分かろうとしてくれたり、
聞きとれない私にどうにか分からせようとしてくれたり、
みんなが私にあたかく接してくれたからこそだと思
います。

お別れのとき「また帰っておいで」と言ってくれたり、
山陽小野田市のことを伝えると「絶対に行くからね」と
言ってくれたり、嬉しさ感謝の気持ちでいっぱいでした。
Amelie から「Let's keep in touch!」と書いてあるポ
ストカードをもらい、帰国後も毎日連絡を取り合ってい
ます。

オーストラリアのどこにいても大切だと思ったことが
あります。それは「笑顔でコミュニケーションをとる」と
いうことです。そうすれば、言葉が通じなくても、私の
ことを知ろうとしてくれる、そしていつのまにかたくさん
の友達ができていました。日本ではできない体験、自
分の殻にとじこもっていたのは分からなかったこと、見え



なかったこと、それがたくさん分かりました。「いつか
海外へ行きたい。」その夢をこのような形で叶えること
ができ、チャンスをあたえてくださったみなさんに感謝
ばかりです。この経験をして、もっと色々な人と関わ
りたい、また海外へ行きたいという気持ちになりました。
この海外派遣事業に参加しようと思わなければ絶対
に思わなかったことです。なれない環境にも挑戦する
ことは、とても勇気があることですが、自分を変える大
きな一歩となります。

これからも、後悔がないよう、たくさんの方に挑戦
したいです。

ホームステイ報告書

ホストファミリーとは、ホームステイ前から連絡をとって、家のこと、気温のことなど詳しく教えてくれました。そのおかげで不安なくオーストラリアへ向かうことができました。

ホストファザーの Dean はとてもおもしろい人で食事のときにたくさんジョークを言ってくれたり、私のことを聞いてくれたりしました。毎日の食事がとても楽しみでした。



ホストマザーの Tamaho は日本人でした。でも、英語と日本語を使いわけて私に話しかけてくれました。朝は Lexy と一緒にドギーパークやペリカンパークに連れて行ってくれました。

そのときに、オーストラリアのこと、日本からオーストラリアに来たときに不安だったことなど、たくさんのことを教えてくれました。いつも優しくしてくれて、私のことを気遣ってくれて、本当に優しくて温かい人でした。

ホストブラザーの Ricky とはあまり話すことができなかったのですが、朝は絶対に「おはようございます」や「Good morning.」と言ってくれて緊張がほぐれました。Ricky はゲームが好きで、私と Amelie がゲームをしたことを話すと、「どんなゲームをしたの?」といつも聞いてくれました。次に会いに行くときはもっとたくさん話したいです。

そしてバディの Amelie はおもしろくて、一緒にいるととても楽しかったです。はじめに会ったときは英語でしたが、日本語が話せると言ってからはずっと日本語で話しかけてくれました。だから、意味が分からない英語や、ずっと疑問に思っていた英語表現を聞くと、たくさん教えてくれました。オーストラリア特有の発音や、学生が友達どうしでよく使う言葉なども教えてくれて、とても楽しんで英語の勉強ができました。



一緒にゲームをしたり、折り紙をしたり、習字をしたり、何気ない話でたくさん笑ったり、一緒にいるだけでずっと笑っていられました。

Mahoney 家はとても明るく、楽しく、温かい家族でした。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。絶対にまた帰りたいと思います。そのときまでにたくさん英語を勉強して、成長した自分の姿を見せたいです。英語の会話にも日本語の会話にもついていけるようにがんばりたいです。ホストファミリーが Mahoney 家で本当によかったと思います。私にとってかけがえのない存在です。私は Mahoney 家が大好きです。



ホストファミリーの紹介

Mahoney 家
父 Dean
母 Tamaho
息子 Ricky
娘 Amelie
犬 Lexy



引率者
高千帆小学校教諭

はらだ さとみ
原田 里美

平成30年度中学生海外派遣事業 帰国報告書

中学生海外派遣事業において、オーストラリアで訪問した学校について、本事業に参加した山陽小野田市の生徒たちの様子について報告する。また、今回引率することを通してオーストラリアの町や文化の様子を知ったりそこで暮らす人々と関わったりと貴重な体験をさせていただいた。このことを小学校教員として今後の学校生活に生かしていこうと考えていることについても併せて報告する。

オーストラリアの学校や教育～日本の学校と比べて～

今回は、レッドクリフステートハイスクール、ハンピーボング小学校、スカーバラ小学校の3つの学校を訪問した。

生徒たちが多くの時間を過ごしたのがレッドクリフステートハイスクールである。ハイスクールに通う生徒は、7年生から12年生までで、日本の中学生と高校生に当たる。学校はとても広く、教室も多い。部屋ごとにアルファベットの名前がついており、生徒たちが受ける授業ごとに移動していく。



山陽小野田市の生徒たちは、毎朝「T7」という教室に集まった。中には和室や日本語が書かれた掲示物、生徒が日本に旅行した時の写真などがあった。先生方も日本にとっても興味をもたれていて日本に行ったことのある先生もいらした。



けん玉を教えてあげたりする授業もあった。クリケットもハンドボールもよく生徒たちが休み時間にやるゲームだそうだ。オーストラリア



の生徒が見本を見せてくれて、日本の生徒が体験した。

けん玉を教えた時には、生徒たちが英語で伝えるとともに、何と言ったらよいかわからない時も「まっすぐ上にあげるだけだよ。」などとジェスチャーを使いながら

上手に教えていた。できた時には「すごい！」と笑顔で伝えてとても楽しく過ごすことができていた。

さよならパーティで日本の生徒が用意した「福笑い」も大変喜んでくれた。日本らしい「おかめ」、「ひょっとこ」だけでなく、「ドラえもん」、「アンパンマン」、「マリオ」といったアニメやゲームのキャラクターの福笑いも用意していたのでオーストラリアの生徒たちにもなじみやすかったように思う。「福笑い」という言葉通りみんなが笑顔で過ごすことのできる時間となった。

この事業の際にお互いの国のことを紹介し合えることは生徒たちにとって大変興味深く、何よりの国際理解になると感じた。

2つの小学校でも日本語の授業が行われていた。ハンピーボング小学校では3年生からスカーバラ小学校ではプレ(小学校入学前)の児童から日本語の授業を受けていた。児童達はとても積極的に出会ったときには「こんにちは。」「はじめまして。」「じゃあ、また。」など日本語であいさつをしてくれた。ハイスクールと同様に、教室の中にも日本の物を飾ってあり、日本の物を児童が自然に目にするようにしていた。

日本語の授業では、遊具の名前を勉強する授業を受けた。すべり台、シーソー、あみ、つり輪など実際の物を見ながら「すべり台があります。」「シーソーがあります。」など、言葉の練習をした。その後は先生が日本語で言った遊具に児童が行って遊ぶというゲームをした。最後は中学生も一緒に遊具で遊びながら日本語の練習をした。英語では「There is ~. / There are ~.」で、物が「ある」ことも、人が「いる」ことも表すことができるが日本語では言い方が違うことも先生が説明されていた。実際の遊具を使っているので児童はとても楽しく学習しているように思った。

また、「プレ」のクラスの日本語の授業では「色」の学習をした。山陽小野田市の生徒たちが日本の色の絵本をグループごとに読み聞かせをした。児童の反応を見ながら、読み方や速さに気をつけて読んであげていたのも、児童もとても楽しそうに聞いていた。

日本の小学生も英語を「外国語活動」として3年生から学習している。テキストを使って英語の発音をしたりゲームをしたりする授業が中心である。今回見学させていただいた2つの小学校の実践を私自身も2学期からの授業にいかしていきたいと思う。また、子供たちにオーストラリアに山陽小野田市の姉妹都市があること、そこへ先輩たちが訪

問したこと、オーストラリアの町や学校の様子をしっかりと伝えていきたい。そして子供たちが外国に興味をもったり、英語をもっと学んでみ



たいという意欲をもったりすることができるようになっていきたいと思う。

2つのオーストラリアの小学校では日本の小学校とは違い、ランチタイムが2回ある。ハイスクールと同

じように児童は家から持ってきたお弁当を食べる。売店で注文することもできるそう。日本では給食を教室で食べるが、どちらの小学校でも全校児童が1つの場所に集まって食べていた。ランチタイムの後には休み時間があり、中学生も小学生と一緒ににごっこやサッカー、ハンドボールなどたくさん遊んだ。訪問した小学校の先生から、児童が山陽小野田市の中学生が毎年来ることをとても楽しみにしている、というお話も聞くことができ、大変嬉しく思った。また、スカーバラ小学校では先生と児童が日本に旅行をしたこともあるそうだった。しかしながら、どちらの小学校でも姉妹校が山陽小野田市にあることや学校の名前は知らないとおっしゃっていた。

今後この事業

を続けていくにあたって、訪問した際には、山陽小野田市の学校のことも伝えていき、帰国後もお互いの様子を学校で紹介するなど2つの市の親交がさらに深まっていくとよいと思った。



言葉、笑顔、ジェスチャー ～コミュニケーションをとる時に大切なもの～

この派遣事業全体を通して生徒達のコミュニケーション能力は大きく向上したように思う。日本の生徒同士が事業全体を通して仲良くなれたことも要因の一つだと思う。

オーストラリアでは、学校、ホストファミリーと過ごす時間で英語を聞いたり話したりする機会があった。



ハイスクールでは、生徒一人一人にバディの生徒がいた。バディはホストファミリーのことが多いがホスト

ファミリー以外の生徒の場合もあった。安心して関われる相手として話をしながらランチタイムを過ごした。

また、バディ以外の生徒と関わることもできた。日本語の授業を担当されているジェシカ先生が、授業ごとに日本の生徒とオーストラリアの生徒でペアを作ってくださった。「英語をたくさん話せるようにするため」とおっしゃっていた。ハンピーボング小学校からの帰りに歩いてフィッシュアンドチップスを食べに行ったりアイスクリームや飴を買いに行ったりした。またオーストラリア動物園も一緒に回った。ペアにすると生徒達もたくさん話すことが出来たようだった。

初日は、何を話せばよいのか分からない子も多かったのではないかなと思う。しかし最終日のランチタイムやさよならパーティでは楽しく話している姿を見ることが出来た。会話の中でもジェスチャーや相づちも多くなり自然に笑顔が増えていったように思う。

学校が終わると、ホームステイ先の家でそれぞれ過ごした。家ではもちろん英語を聞いたり答えた

りする機会も多かったと思うが、ホストファミリーが日本の生徒たちに進んで話しかけたり、いろいろな場所に連れて行ってくれたりしてかかわってくださったことが生徒たちのコミュニケーション能力の向上につながったと考える。生徒たちも日本食をふるまったりホストファミリーと英語で話したりして積極的にかかわっていた。毎朝みんなで集まったときには昨日食べたものの話や遊びに行ったときの話、ホストファミリーと話したことなどを楽しそうに話していた。

オーストラリアの人たちを見ていると初めてあった人に対しても笑顔で進んで話しかけてくれる人が多かったように思う。それに比べると、日本人は知らない人に話しかけることは少ないように思う。コミュニケーションをとる際に言葉や文法が正しいかどうかそうだが、表情や一生懸命伝えようとする態度も同じように大切なのだと改めて感じた。その態度が今回派遣された8名の中学生にも身についていたように思う。

また、今回の事業を通して「オーストラリアに住みたい」、「他の国にも行ってみたい」という生徒の声を聞くことができ、嬉しく思った。本事業を続けていくこと、本事業の成果を伝えていくことで、未来を担う多くの子供たちが自分たちの世界を広げるきっかけになってほしい。



最後に、この派遣事業遂行に多大なるご尽力をいただいた山陽小野田市とモートンベイ市の職員の皆様、レッドクリフステートハイスクール、ハンピーボング小学校、スカーバラ小学校の先生方、ホストファミリーの皆様にご感謝し、山陽小野田市とモートンベイ市のますますの友好をお祈りいたします。



引率者

山陽小野田市市民生活課

たじま ゆうき

田島 優希

平成30年度中学生海外派遣事業 帰国報告書

山陽小野田市の姉妹都市である、オーストラリア・モートンベイ市にて、8月9日(木曜日)から8月20日(月曜日)までの10泊12日の日程で、中学生8名と引率者2名で海外派遣を行った。中学生海外派遣事業を担当し2年目となった今年、私自身も引率者としてモートンベイ市へ行くことになり、この事業を通して派遣生徒たちがどんな場所で活動し、どんな風に成長していくのか、実際に見る事ができた。現地での体験や、まちの様子、事業を通して感じたことなどについて報告する。

行程について



モートンベイ市までは、新幹線、地下鉄、飛行機を乗り継ぎ、到着するのにほぼ丸1日かかった。8月9日の朝6時57分発の新幹線で厚狭駅を出発し、オーストラリアへ到着したのは翌日10日の朝7時過ぎだった。飛行機の乗換えで利用したシンガポールのチャンギ国際空港や、オーストラリアのブリスベン空港では、出発前に日本で行ったオリエンテーションで練習した内容を思い出しながら、生徒たちは緊張しながらもしっかりと空港職員へ受け答えをしており、モートンベイ市での生活に向けて、準備ができているなと感じた。



ブリスベン空港からレッドクリフステートハイスクールに直接向かい、ハイスクールに到着後早速、歓迎会・授業へと続けて参加した。飛行機で長時間移動した直後に学校で1日過ごすのは、生徒たちにとってはなかなかハードなものだったと思う。それでも、バディとの初対面ではしっかりと挨拶をし、学校の授業では緊張しながらも現地の生徒とのコミュニケーションをとる姿を見て、明日から9日間でみんながどんな風に成長していくのか、楽しみにになった。



現地では、レッドクリフステートハイスクールのジェシカ先生が学校内外での活動の調整や支援をしてくださり、大変お世話になった。



まちの様子について



モートンベイ市は、2008年に3つの市が合併してできた大きな市である。今回の派遣で主に活動したのは、1992年に旧小野田市が姉妹都市提携を結んだ旧レッドクリフ地域である。レッドクリフ地域は、広い範囲を海に囲まれた自然が大変美しいまちだった。海に面して雑貨店やレストラン、カフェなどお店がたくさん並んでいる通りがあり、毎週日曜日にはそこで「Redcliffe Jetty Markets」というマーケットが開かれる。野菜や果物を売る出店があれば、洋服、雑貨、お菓子や軽食を売る出店もあり、朝からお昼過ぎ頃までは歩行者天国となって、若者から家族連れまで多くの人が買い物に訪れて大変賑わっていた。海沿いにはウォーキ



ングやサイクリングができる長い道や公園もあり、休日に歩いたときには、レジャーシートを広げてくつろぐ人がいたり、若者が集まって遊んでいた、家族でスポーツをしたりする光景が見られた。ハイスクールや派遣中に訪問した小学校など、モートンベイ市で出会った人たちはとてもフレンドリーで、温かいまちであった。

ホストファミリーとの関係

生徒たちは、平日は基本的にレッドクリフステートハイスクールで授業を受けるが、間で小学校を訪問する日や動物園で1日過ごす日もあった。学校内だけではなく、外に出てまちを散策する時間もあり、生徒たちが学校以外でもたくさんの人と交流できるようにも充実した内容の活動をさせていただいた。



派遣期間中は、モートンベイ市へ到着後すぐに3連休があったことと、学校の授業が基本的には午後2時40分には終わるため、生徒たちはモートンベイ市での多くの時間をホストファミリーと過ごすことができた。



オーストラリアでは普段家庭訪問という習慣はないが、今回はホストファミリーの御厚意もあり、一つのホストファミリーにお話を伺うと、家では生徒が作った日本の料理をみんなで食べ、夜には一緒に映画を見るなど、家族の一員として温かく迎え入れてくれていることが感じられた。また、生徒のことを大変よく気遣ってくれており、必要なものはあるか、困っていることはないかなど、よく声をかけてくれている様子だった。一緒に生活する中で、なかなか思っていることを伝えられない場面もあるため、コミュニケーションをとる上では、ゆっくり話したりジェスチャーや辞書を使うなどして生

徒もホストファミリーもお互いに工夫している様子だった。ホストファミリーと話をする中で、ホストファミリーたち自身も生徒との生活をとても楽しんでくれていることが分かった。

ほかの生徒にも、平日毎朝学校へ集合したときに、ホストファミリーとどのように過ごしているか聞いていると、買い物や海やキャンプに行ったこと、食事のこと、生活習慣の違いに驚いたことなど、とても楽しそうに話しをしてくれ、ホストファミリーと良い関係を築けているように感じた。ホームステイした各家庭には、家庭や学校でのサポートをしてくれる、生徒と同じ年頃のバディがおり、バディたちの存在も、生徒たちにとってとても大きなものであったと思う。

家でも学校でも一緒に過ごす時間が合ったバディはとても頼りがいがあったと思うし、学校で会った時に手を振ったり駆け寄ったりする姿を見て、日に日に仲良くなっているように感じた。

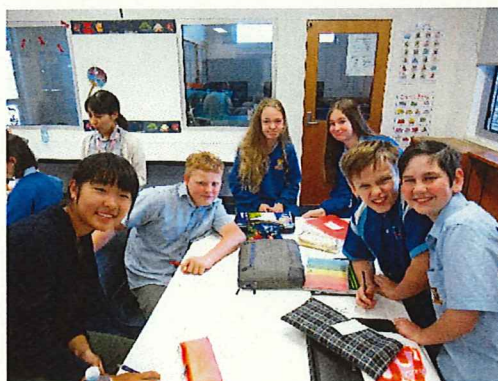
休日が多かったため、学校での時間は少なかったものの、その分ホストファミリーと長く濃い時間を過ごしたのではないだろうか。ホームステイすることで、オーストラリアの文化や現地のリアルな日常生活を送ることができて、生徒たちは貴重な体験をしたと思う。



全体をととして

生徒たちは、最初は緊張や恥ずかしさもあり、なかなか言葉が出てこず、コミュニケーションが難しそうに見受けられる場面も多かった。自分のほかに日本語を話せる人がいない環境に一人で飛び込み、苦勞したことがたくさんあったと思う。しかし、日が経つに連れて、徐々に英語での質問に答えられるようになってたり、自分からもどんどん積極的に話しかけることができるようになっていた。日本語で聞いた質問に対して、自然と英語で返事をしたときには、オーストラリアの生活にすっかり馴染み、英語でのコミュニケーションもしっかり取ることができているのだと分かって嬉しくなった。ほんの12日間の派遣ではあるが、オーストラリアの文化を肌で体験し、生徒たちは多くのことを吸収したと思う。出発前に立てた目標に向かってそれぞれ一生懸命に取り組み、日本に帰る頃には自信にあふれ、本当に大きく成長していた。

この派遣事業に参加した生徒のみんなには、異なる文化を持った人々と共存し理解しあえる広い視野を持ち、加速する国際社会の中で将来、大いに活躍する人になってほしいと願う。今後も海外派遣事業を末永く継続し、たくさんの生徒たちに姉妹都市・モートンベイ市でこの体験をしてほしいと思う。



編集・発行

山陽小野田市市民部市民生活課

〒756-8601

山陽小野田市日の出一丁目1番1号

TEL 0836-82-1134

FAX 0836-83-2604